

【大治町】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1. 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

これからの子どもたちは、判断力や表現力を含めた幅広い学力（確かな学力）が求められている。そこで、めまぐるしく変化する社会で生きていくために、大治町では、1 人 1 台端末等の ICT 機器を活用し、自ら課題に取り組んだり、協働して課題に取り組んだりする互いに学び合う教育を目指している。

子どもたちが自ら課題に取り組んだり協働して課題に取り組んだりする姿とは、例えば、自分のペースで納得のいくまで課題に取り組んだり、学んだことを自分なりの工夫で表現し発信したり、他の意見から新たな課題を発見したりしながら学んでいくような姿である。

1 人 1 台端末やクラウド環境があれば、多くの情報の中から自分が必要とする情報を選び、整理し、自分の考えを様々な方法で表現・発信することができる。また、友達の学び方を参考にしたり友達の考えを知ったりすることから多面的・多角的な視点が生まれ、自らの学びを深めることができる。

このように 1 人 1 台端末とクラウドを活用した環境の中で、互いに学び合う教育を推進する。

2. GIGA 第 1 期の総括

GIGA 第 1 期では、端末としてクロームブックを児童生徒、教職員に整備をしてきた。また、各校の無線 LAN 環境を整備するとともに、1G のベストエフォート回線をローカルブレイクアウトで整備し、令和 6 年度に帯域が不足する大規模校には 10G ベストエフォートを追加し、ICT 環境（Google Workspace）を十分に活用することができる環境整備をしてきた。

コロナ禍の休校で、子ども達に自分で学ぶ力をつけることができていることを実感した。1 人 1 台端末とクラウド環境導入後は、とにかく使ってみるという意識で活用をはじめた。

授業での活用場面を模索することはもちろん、児童会・生徒会委員会、部活動、クラブ活動、係活動など、あらゆる場面での有効活用を試みた。その際、教員研修を行ったり有効なアプリがあれば学校間で共有したりするなど、大治町全体で ICT の活用を推進するようにした。

低学年では、ローマ字入力ができないことから、手書き入力や写真・動画の活用を中心に取り組んできた。タブレット端末で撮影した野菜の記録写真を使って観察カードを書いたり、成長記録を記したカードを撮影してアプリ上でまとめてアルバムを作成したりした。また、検索機能を使って自分に必要なおもちゃづくりの手順を調べたり、体育で自分の動きとお手本の動きを動画で比較して改善したりした。このように主に学習過程の情報収集に写真や動画を活用した。

中学年以上は、情報の収集、集めた情報の整理・分析、まとめるといった過程でタブレットを活用して、個別最適な学びの実現に向けて取り組んだ。また、グループ学習で意見や考えを共有する場面でもタブレットを活用し、話し合いを深めた。タブレット端末を使ってクラウドを活用することで、互いの学習の様子がわかるようになったことが、子どもの学びを助けることになった。自分と同じ考え・違う考えにふれることで自分の考えの質をよくするきっかけとなった。

このように、ある場面だけで使うのではなく、日常的に1人1台端末とクラウドを活用することで、自ら課題に取り組んだり、協働して課題に取り組んだりする互いに学び合う教育の手立てとなっていた。

情報通信技術支援員（ICT支援員）については、専任の支援員が配置されていないが、月に2回各学校を巡回する保守業者が支援員の役割も務めている。

令和6年4月に実施された全国学力学習状況調査の学校質問紙では、タブレット・ICT機器に関わる項目において、以下の回答であった。赤字の項目については、全国平均との乖離が大きく、本町としても重点的に教育委員会及び全校で実施できるように取り組んでいく。

	全国%	本町%
前年度に、教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか	週3回以上 92.4	週3回以上 75.0
教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	ある・どちらかと言えばある 93.0	ある・どちらかと言えばある 100.0
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか	週3回以上 92.0	週3回以上 75.0
調査対象学年の児童生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	週3回以上 73.5	週3回以上 50.0
調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	週3回以上 53.5	週3回以上 50.0
教職員と調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	週3回以上 58.6	週3回以上 75.0

調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	週 3 回以上 43.1	週 3 回以上 50.0
調査対象学年の児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	週 3 回以上 47.5	週 3 回以上 50.0
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（１）不登校児童生徒に対する学習活動等の支援	週 1 回以上 45.9	週 1 回以上 25.0
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（２）希望する不登校児童生徒に対する授業配信	週 1 回以上 35.1	週 1 回以上 0.0
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（３）特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動等の支援	週 1 回以上 63.3	週 1 回以上 50.0
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（４）外国人児童生徒に対する学習活動等の支援	週 1 回以上 21.1	週 1 回以上 25.0
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（５）児童生徒の心身の状況の把握	週 1 回以上 34.5	週 1 回以上 100.0
障害のある児童生徒が一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用する際、入出力支援装置等を活用し、障害種・障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた支援をどの程度行いましたか	よく行った どちらかとい えば行った 15.7	よく行った どちらかとい えば行った 0.0

自ら課題に取り組んだり、協働して課題に取り組んだりする互いに学び合う教育を推進する中で明らかになってきた課題は、教師による子ども一人一人のみとりと助言である。一人一人の活動がクラウドによって以前より見えやすくなったものの、クラス全員の活動や進捗をどのように把握していくのか、助言の内容やタイミングを一人一人の個性によってどのように工夫していくのかなど、教師のファシリテーターとしての資質能力が課題となってきた。

各校による個別最適・協働的な学びの進み具合の差も課題である。タブレットとクラウドの活用はすべての学校で始まっているが、自ら課題に取り組んだり、協働して課題に取り組んだりする授業展開は町内のすべての学校で実現しているわけではない。すべての学校で個別最適・協働的な学びが共存し、互いに学び合う授業展開が実現するよう、今後も推進していく。

また、不登校や障害、言語等の問題を抱えている児童生徒に対しても、利活用の方法を模索していく必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

今回の端末の整備・更新により、1人1台端末とクラウド環境を引き続き維持していく。1人1台端末の日常的な活用から学び合いを充実させることについては、各校で取り組みの差がある。先進的に実践・研究を進め、学び合いを充実させている学校の取組を町内の学校に公開し、教師自身が実際にみることで主体的に学ぶことができるようにしていく。また、実践共有や子ども達と同じ環境を使った教員研修の充実に取り組んでいくことで、町内すべての学校で学び合う授業展開を実現できるようにする。

1人1台端末を活用した学びの保障についても、取り組みを模索していく。不登校児童生徒への支援、外国人児童生徒への支援、障害のある児童生徒への支援については、クラウド環境を活用した連絡体制、オンラインでの授業への参加、翻訳機能の活用、表現方法の工夫等、方策を検討し試みる。

保守業者のICT支援員としての役割を更に活用し、先進校の取組や授業支援のアイデア等について、多くの情報を提供できるようにする。

端末やクラウドによって支援できることについての保護者への丁寧な説明をしていく必要がある。学びの保障についても、町内すべての学校で実現することを目指していく。